アルジェリア

DEMOCRATIC AND PEOPLE'S REPUBLIC OF ALGERIA

任国情報

1988年

国際協力事業団
国際協力総合研修所

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に,任国での生活上必要な事項についての情報を提供することを目的とし,昭和62年1月にデータベースを整備したものである。

その後,現在までに確認された情報の変更,追加等修正を行い,このたび1988年版として刊行するものである。

本情報の整備にあたっては当該国に派遣中の専門家,JICA事務所員,プロジェクト調整員,協力隊調整員とその御家族の多大な御協力を得た。また,外務省,在外公館その他関係機関の御好意により,貴重な資料の一部を利用させていただいた。

今後も,本書の内容を一層充実させ,常に,新しい情報の提供に努めたく,各国に御滞在の皆様より最新かつ具体的で正確な情報をお寄せ下さるようお願いする。

本情報が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いである。

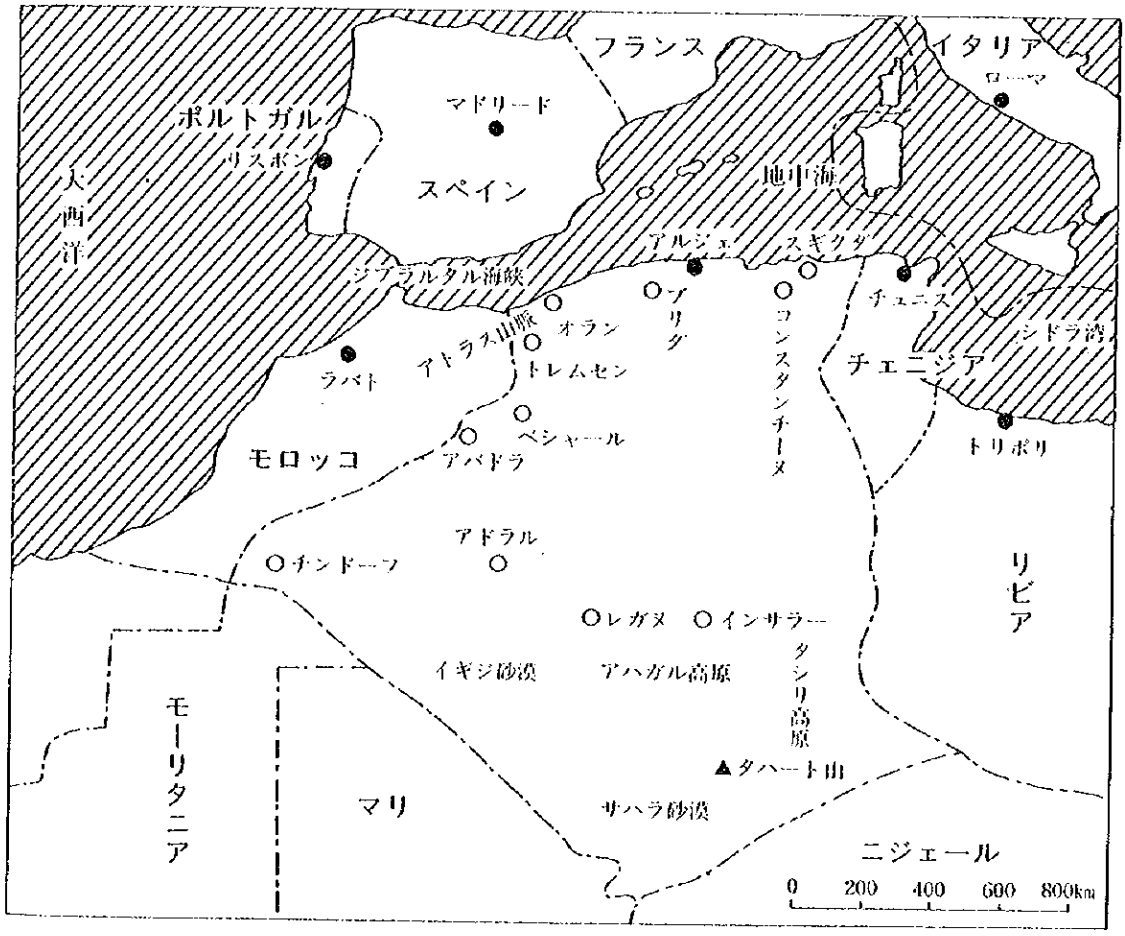
JICA LIBRARY
1066774[9]
401
20
IIC
~~A359946~~
17895

昭和63年4月

国際協力事業団

国際協力総合研修所所長

アルジェリア民主人民共和国



目　次

頁

I 一般事情

1. 主要指標 …… 1
2. 略　史 …… 4
3. 政治,外交 …… 5
4. 経済事情 …… 7
5. 我が国との関係 …… 14

II 生活事情

1. 食生活 …… 17
2. 衣　料 …… 25
3. 住　居 …… 29
4. 医　療 …… 31
5. 教　育 …… 34
6. 家庭の使用人 …… 36
7. 交通事情 …… 38
8. 通　信 …… 40
9. マスコミ …… 42
10. 教養,娯楽,趣味,スポーツ …… 43
11. その他のサービス …… 48
12. 観　光 …… 49
13. 治安,緊急時の心得 …… 50
14. 出入国手続きおよび帰国手続き …… 51
15. 私財の輸送,引取り,購入 …… 52
16. 社　交 …… 53
17. 任国公官庁 …… 54
18. 在外日本関係機関等 …… 55
19. 地方都市 …… 56

I 一般事情

1. 主要指標

1－1 国　名　アルジェリア民主人民共和国
Republique Algerienne
Democratique et Populaire
(Democratic and People's Republic of Algeria)

1－2 独　立　1962年7月3日
(旧宗主国フランス)

1－3 首　都　アルジェ
(人口約219万人)

1－4 面　積　238万平方キロ
(日本の約6.4倍)

1－5 気　候

内陸の砂漠地域は降雨がなく暑いところであるが，地中海に面した首都アルジェをはじめ，各都市は温暖な地中海性気候である。

この地方の気温は夏は25度前後，冬も10度前後であり，たいした寒さにはならない。しかし，気温差は大きく，冬の10月から3月にかけては雨がよく降る。

アルジェの年間気候表

内容＼月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	最高	15.0	16.1	17.2	20.0	22.8	25.6	28.4	29.5	27.2	23.4	18.9	15.6
	最低	9.5	9.5	11.1	12.8	15.0	18.4	21.1	21.7	20.6	17.2	13.4	10.4
降雨量(日数)		11	9	9	5	5	2	0.4	0.5	4	7	11	12

1－6 人　口　約2,190万人 (1985年)
人口密度　1km²当り約9人

1－7 人種構成　アラブ人　80%
ベルベル人　19%
その他　1%

主要指標

1－8	言　語	アラビア語(公用語) フランス語
1－9	宗　教	イスラム教(国教)
1－10	政　治	
(1)	政　体	共和制
(2)	元　首	シャドリ・ベンジェディド大統領 Chadli Bendijedid
(3)	議　会	全国人民議会(APN), 1院制。 新憲法により1977年2月創設された。議席数は当初261であったが, 81年の新選挙法により281議席に増加した。 1987年2月26日, 第3回国民議会議員選挙を実施し, 295名が当選した。任期5年。
(4)	政　党	FLN(民族解放戦線)が唯一の合法政党。 他の政党はすべて非合法化されている。
1－11	経　済	
(1)	国民総生産 1人当り	581億7,000万ドル(1985年) 2,656ドル
(2)	主要産業	鉱工業　:　石油, 天然ガス, 鉄鉱石等 農　業　:　大麦, 小麦, ブドウ, オリーブ等
(3)	貿　易	輸　出　:　118億6,100万ドル 輸　入　:　103億9,500万ドル(1984年)
(4)	財　政	4－3参照
(5)	通貨単位	通貨単位　:　Algerian Dinar(s)＝100Centime(s) 略　号　:　DA 為替相場　:　1US$＝5.0009(1987年10月末) (東京銀行月報1988年2月号)

(6) 外貨準備高

単位:100万ドル

年	前年比(%)	
1960	260.0	27.7
1965	178.5	5.6
1970	147.9	27.5
1975	1128.3	22.4
1980	3772.6	41.8
1982	2422.0	△34.4
1983	1880.4	△22.3
1984	1464.2	△22.1
1985	2819.0	92.5
1986	1660.2	△41.1

(7) 対外債務

単位:100万ドル

	1984年	1985年
総残高	13,970.1	15,526.0
長期	12,211.1	13,664.0
公的(注)	12,211.1	13,664.0
民間	0.0	0.0
IMF融資	0.0	0.0
短期	1,759.0	1,862.0

(注) 公的保証付民間債務を含む。

1985年下期から86年にかけての油価急落で,一層の緊縮政策,外貨節約策,投資の削減などが行われ,85年よりスタートした第2次5カ年計画のプロジェクトの多くは延期されている。

このため当面,債務の減少は期待薄で,86年はむしろ外貨収入減の埋め合わせのため,新規借り入れの増加が見込まれる。

1－12 日本との時差

日本との時差は8時間で,日本の正午はアルジェリアでは午前4時である。

2. 略　史

BC	9世紀	カルタゴ帝国の勢力下となる
AD	3~5世紀	ローマ帝国に編入
	7世紀	アラブ人の侵入
	16世紀	オットマン・トルコ帝国に編入
	1830年	フランスによる併合・植民地化
	1954年　11月	FLNの武力蜂起 (アルジェリア戦争勃発)
	1962年　7月	フランスより独立
	1965年　6月	軍事クーデター，ブーメディエンヌ政権の成立
	1976年　11月	憲法制定
	1976年　12月	ブーメディエンヌ革命評議会議長，大統領に就任
	1977年　2月	人民議会選挙
	1978年　12月	ブーメディエンヌ大統領死去
	1979年　2月	シャドリ大佐を大統領に選出
	1984年　1月	シャドリ大統領再選

3. 政治,外交

3－1 最近の政情

1984年1月に実施された大統領選挙でシャドリ現大統領が95.4%という圧倒的支持を得て再選された。再選にあたっては青年層のシャドリ政権支持の姿勢が強くしめされたと伝えられている。

シャドリ政権は,政治志向,国家権力誇示の傾向が強まったブーメディエン時代を引き継ぎながら,政治面では多角外交政策,経済面では重工業偏重から国民の福祉と生活重視へと,着実に路線変更を続けている。

前政権のいわば"イデオロギー路線"から"現実路線"へ着々と転向しているわけで,イスラム原理主義,ベルベル人少数派などという不安材料は依然抱えながらも,分散·分権化,民間活力の活用へと少しずつ柔軟化,自由化の方向に向かっている。

1985年12月のFLN(国民解放戦線)党臨時会議開催の後86年1月16日の国民投票により,政府は76年以来の国家憲章を改訂した。この結果,社会主義とイスラムを軸に党とイスラミック·アラブの伝統が強調され,一方でイスラム原理主義者はこれを排除すること,ブーメディエン時代のより厳格な社会主義からやや柔軟なシャドリ路線,すなわち重工業偏重から軽工業·農業·民生重視への移行,緩やかな民活などの考え方が確認され,シャドリ大統領の地位はより強固なものとなった。

3-2 外　交

外交の基調は非同盟中立,アラブ連帯,マグレブ人民の団結,反植民地主義,反帝国主義である。

独立当初のアルジェリアは内政に重点を置かざるを得なかったことから,外交にはむしろ消極的であったが,ブーメディエンヌ政権(1965年~1978年)後半より活発化し,1973年9月第2回非同盟諸国首脳会議,11月中東問題に関するアラブ首脳会議,75年3月OPEC首脳会議をアルジェで開催するなど非同盟諸国,アラブ諸国,産油国の中で積極的な外交を展開し,その発言力を高めてきた。

1979年2月に成立したシャドリ政権も,こうしたブーメディエンヌ政権時代の非同盟主義,アラブ連帯等の基本政策を継承しつつ,西側諸国とも関係の緊密化を計っており,徐々にプラグマティックな西側寄りの現実路線へと軌道を修正してきている。

シャドリ大統領は1986年3月の訪ソビエト連邦でゴルバチョフ書記長と会談し,2国間経済協力の推進を確認した。

また,シャドリ・カダフィ会談を行い,リビアとの関係改善の動きもある。米国の対リビア攻撃に際しても紋切り型ながら,国家的テロリズムとして米国の横暴を非難する態度をとっている。

内政面では,官僚主義的硬直性,汚職などの内部腐敗,耐乏生活に対する国民の不満解消ならびにゆるやかな自由化促進に今後どう取り組むかが鍵となっている。

4. 経済事情

4－1 概　観

独立以前のアルジェリア経済は，ぶどう生産を中心とするモノカルチャー経済であったが，独立直後の経済的混乱期(1962~64)を経てブーメディエンヌ時代(1965~78)に入ると，アルジェリアは長期展望にたった経済開発計画を策定し，金融，産業，資源，貿易等あらゆる面で経済の中央集権化，社会主義化を図りながら，一方で豊富な石油収入をバックに開発の初期段階から炭化水素部門を中心とする急激な工業化を推進した。このような開発戦略は，通常開発途上国がまず軽工業による輸入代替からスタートし，技術，資本の蓄積をはかりながら次第に重化学工業を進めていくのに比べ，きわめてユニークなものであった。

しかし，過去ほとんど近代産業の伝統のないアルジェリアでのこのような開発戦略の実施は，計画の後れからくる産業関連上の不整合など様々なひずみを生み出し，また投資に見合った成果が必ずしも表れたわけではなかったためにシャドリ大統領時代(1979~)に入ってからは，工業化戦略の見直しが行われ，1980年には経済部門間のバランスを重視する第3次5カ年計画が策定され，本年をもって終了する。

また，1981年後半からの石油グラットの下で，アルジェリアも一時期石油収入の減少から，経済運営の困難さが指摘されたこともあったが，天然ガスの長期供給契約の締結に次々と成功し，他の産油国にはない安定収入の道を確保したことによって，アルジェリア経済は，対外的にはより安定性を増してきたというのが現在の状況である。

ただ，国内経済は，農業生産の低迷や低工場稼動率，熟練労働者の不足など深刻でかつ構造的な問題を抱えており，第3次5カ年計画でも指摘されているように現有生産能力の活用と効率性の改善が当面の課題であるといえよう。

4-2 産　業

(1) 農業

独立以来，アルジェリアの農業政策の目標は，農地改革と植民地時代の商品作物を中心とする輸出指向型農業から転換し，国内の食糧需要を自給することにおかれていた。しかし，これまでの結果からみる限り，農業部門は独立後一貫して低迷状態にあるといってよい。GDPにしめる農業部門のウェートは，炭化水素部門の急速な成長と農業部門の低成長の双方の理由によって1969年の10.5%から1981年には6.2%まで低下している。また工業化にともなう農村から都市への人口流出，あるいはヨーロッパへの出稼ぎによって，労働力人口にしめる農業人口の割合いも同期間中に45.8%から23.7%に低下している。

アルジェリアの主要農産物は，小麦，大麦などの穀物類，ワイン用ぶどう，オリーブ，かんきつ類，デーツ，馬鈴薯，トマトなどの野菜，タバコ，てんさい等である。中心となる穀物生産は，1979年度は干害にみまわれ161万トンと低迷したが，その後順調に回復し，1981年度の生産は211万トンとなった。それでも1981年度の穀物輸入量は203万トンに達している(自給率51%)。また1982年度の穀物生産は，旱魃の影響もあり前年度比で20%の減少になっている。

(2) 原油

確認埋蔵量はおよそ94億4千万バーレル(1983年1月現在，OGJ誌推定)とされている。これは共産圏を含む全世界の確認埋蔵量の約1.2%(世界第15位)に相当し，アフリカではリビア(215億バーレル)，ナイジェリア(168億バーレル)に次ぐ規模となっている(可採年数は，今後の生産水準を60万バーレル/日と想定すれば約43年)。

生産量は，1981年後半以降の石油グラットの影響およびアルジェリアが石油温存政策を堅持したこともあり，1981年3,758万トン(約65万B/D，前年比20.4%減)と落ち込み，82年にはさらに3,220万トン(約55万B/D，前年比14%減)程度になる見込みである。ただ，1981年以来，コンデンセートの生産が好調で，1980年の実績432万トンに対し，1981年が896万トン，1982年が1,230万トン見込みと生産が急増しており，原油生産減少のある程度の部分をカバーしている。

(3) 天然ガス

確認埋蔵量は約3.2兆m³(1983年1月現在)とされており，これはソ連，イラン，アメリカ，サウディ・アラビアに次いで第5位，世界全体の約3.7%に相当する。生産量は81年に313億m³で内160億m³が輸出されている。

また，アルジェリアはかねてから熱量換算ベースで天然ガス価格の原油価格等価スライド制を主張し，契約先とねばり強い価格交渉を続けてきたが，1981年以後その努力は次々と報われつつある。天然ガス(LNG)の輸出価格は，これまで100万BTU(1BTU－英式熱量単位－は1ポンドの水を華氏1度上げるのに必要な熱量)当り2.85~3.6ドルの価格であったものが，1981年1月にはまずベルギーのディストリガス社との間で4.8ドル/100万BTUの価格で契約が成立したのを皮切りに，1982年2月には2年越しの交渉の結果，フランスのガス・ド・フランス社とも交渉が妥結(5.12ドル/100万BTU)し，その後アメリカのディストリガス社，同バンハンドル社と次々に同様の契約が結ばれた。また，1982年9月には，アルジェリアの天然ガス輸出にとってきわめて重要な意味を持つ地中海横断ガス・パイプラインによるイタリアのSNAM(ENIの子会社)への天然ガス輸出価格交渉が4.41ドル/100万BTUで妥結している。天然ガス輸出は長期契約に基く安定的な外貨獲得手段であるだけに，この一連の価格引き上げ交渉の成功によりアルジェリアは他の産油国にない安定性が備わったといえるであろう。

(4) 工業

アルジェリアは独立戦争の過程でつちかった社会主義の基盤に立ち，計画経済の枠組の中で，国営企業を経済活動の主軸に据え，経済自立の観点から外国資本の導入を極力排除しつつ，炭化水素，鉄鋼といった基幹産業を中心に積極的な工業化投資を行ってきた。工業生産高は1960年代に実質年12.9%，70年代は同5.9%の成長を遂げている。

ただこれまでの投資努力が必ずしも期待通りの(あるいは投資額通りの)成果をあげているとはいえない面も多く，工場単位でみると部分的には高能率をあげているプラントもあるが，管理者，熟練労働者の不足等から，総じて低稼動率に悩んでいるのが現状であり，名目ベースでみた工業部門のGDP構成比も，炭化水素部門をのぞき，1973年時点の34%から81年35%と微増にとどまっている。

近年の生産動向をみると鉄鋼を中心とする金属,電気·機械部門,建設資材部門の伸びが大きい。それに比べ,消費財部門の伸びは相対的に低いものとなっている。また業種別にみて,国産化の対象となっているものはかなりの範囲におよぶが,資本財から消費財にいたるまで需要の伸びは大きく,国内需要を充足するどころかかえって輸入に依存する傾向が高まっているのが現状である。

4－3　財政

毎年12月末に公布される財政法では一般会計予算と国営企業投資支出の2つが公共予算として発表される。前者のうち,歳出は経常支出と開発支出とに分かれ,経常支出は主として行政管理費,開発支出は省庁事業費にあてられる。

国営企業投資支出は5カ年開発計画プロジェクトの年間支出額とその内訳をしめすもので,これによって,計画プロジェクトが毎年どの分野に,どれだけ振り分けられるかを知ることができる。財源は,(1)各国営企業の収益の合計(国内財源)と,(2)外国からの援助や借り入れの2つからなっており,財政法では財源は発表されない。

1985年一般予算の歳入黒字額は25億1,400万ディナール(約5億300万ドル)となっており,この余剰は通常,次年度に繰り越されるか,国営企業支出に補填される。

こうして,恒常的に蓄積される余剰によって財政が安定するというメリットは大きいにしても,他方で歳入の40%以上を占める諸税は国民生活に圧迫を加え,消費の萎縮につながる趨勢化している投資予算の伸びの圧縮も投資の先細りを通じて経済成長を減速する危険性を生むことになるわけで,今後こうした傾向が続くと,経済が活性を失う恐れもある。

全国人民議会の可決を経て公示された1984年財政法によると,一般会計の歳出規模は前年比7.2%増,国営企業投資予算は前年比同7.0%減となった。

歳入面では,石油価格の低迷が国の財政に与える影響が注目されていたが,1984年歳入額のうち,炭化水素部門の収入見込み額は前年比のわずか1.3%減の567億6,600万ディナール(歳入総額1,057億8,200万ディナールの53.7%)が計上されており,炭化水素部門収入に対する政府の自信がしめされている。

4-4 貿易,国際収支

(1) 貿易

貿易規模は輸出入とも拡大の一途をたどってきたが,1982年以降,世界的な石油の供給過剰状態の影響をうけて足踏み状態が続いている。輸出の低迷は外貨収入の減少となり,開発プロジェクトの実施見直しや輸入抑制を余儀なくされて輸入減につながる悪循環に陥っている。

輸出は,原油,天然ガス,石油製品など炭化水素関連品目が90%以上を占める。ただ,政府の天然ガスへの重点移行策が着々と進行しており,炭化水素品目の輸出に占める原油の比率が急速に減少し全体の3分の1近くにまでなって,天然ガス,コンデンセート,精製品の比重が増加している。

輸入は,プラント機器,半製品,原材料,食料品,消費財の各分野にわたり好調に推移してきたが,このところ鈍化傾向にある。

ここ,2,3年の傾向としてとくに顕著なのは,輸送機器をのぞき機械類の輸入が停滞していること。

民生用電気機器や食料品など国民生活の充実ないし向上を目的とする消費財は,徐々にではあるが輸入が増加してきている。

貿易は国家独占である。貿易依存度は輸出入併せてGDPの50%。貿易収支は社会主義型計画経済でもあり,輸出減に見合って輸入が削減されるため1979年以降黒字体質を維持している。

貿易相手はECが輸出入とも約6割を占め,ECの中では旧宗主国フランスが伝統的に強く最大のパートナーとなっている。主要輸出相手国は,1984年で,フランス約30%,アメリカ約20%,イタリア18%,オランダ12%である。

主要輸入相手国は,フランス23.5%,西ドイツ10.7%,イタリア8.8%,日本8.1%,アメリカ5.6%となっている。

最近は油価下落もあって,ポスト石油として,炭化水素以外の輸出産品の開発を輸出収入増を狙っている。このため,国産品見本市を開催し,品質向上や競争力の付与,民活などの動きが出てきている。

(2) 国際収支

貿易収支は1970年代は74年と79年の石油危機後の油価高騰による黒字と,76年の若干の黒字以外は常に赤字基調であり,サービス収支もフレート,保険代金の支払いや技術料支払等の支出の漸増に対し,収入がきわめて少なく大幅な赤字が続いた。こうしたことから,経常赤字は年々増大し,78年には35億ドルに達していたが,赤字のファイナンスは海外からの資金導入により行われた。

こうした長期資本による経常赤字ファイナンスは1980年まで続いたため,対外債務が累増し,その元利返済が膨大な額に達するに至ったことから,開発計画の縮小が断行されている。

しかしながら,第2次石油危機により輸出が大幅に伸長したにもかかわらず,1980年以降輸入を大きく抑制し,貿易収支を完全に黒字基調に変えたことが注目される。80,81年の両年は貿易黒字が40億ドルに達している。こうして浮かした黒字で,膨大な貿易外赤字を埋め合せ,経常段階で均衡を保つ構造が80年以降定着しつつある。

IMF統計によると,1985年の経常収支は10億ドルの黒字と大幅に改善された。油価下落で輸出収入が伸び悩んだ反面,輸入は緊縮政策による削減と農業生産増加による食糧輸入減が寄与し,貿易収支は42億2,300万ドルの黒字を達成した。

貿易外収支は恒常的赤字で約36億ドルの赤字,出稼ぎ労働者の送金は前年を若干下回り,貿易外支払いは前年比微減だが43億ドルと依然大きい。理由は経済開発によるプラント類などハード面で先進国より最新設備を導入したが,熟練労働者不足でソフト面では弱く技術契約に基づく技術支払いが大きいためだ。

しかし,資本収支の赤字幅減少もあって基礎収支は約10億ドルの黒字,総合収支は前年の赤字3億ドルから6億ドル余の黒字へ転化した。

国際収支表　　単位:100万ドル

	1984年	1985年
経常収支	74	1,015
貿易収支	3,557	4,223
輸出	12,782	13,034
輸入	△9,235	△8,811
貿易外収支	△3,664	△3,588
移転収支	181	380
長期資本収支	△404	△36
基礎収支	△330	979
短期資本収支	193	△85
誤差脱漏	△197	126
総合収支	△333	1,020

(3) 債務累積

1984年の対外債務は約138億ドル，アフリカ全体の債務が1,740億だから100億ドル超は大きいほうである。

1970年代，特に第2次4カ年計画(74～77年)の重工業化路線と高い投資比率(対GDP比40%以上)が債務増加の要因だった。70年代は特徴として30%以上の高い貯蓄率が下支えしたが，ISバランスは投資が上回った。資金調達は金利の高い国際金融市場が中心となった。

1980年にはこのため債務総額が186億ドル，DSRが27%に達したことから反省が起こり，80年代は重工業偏重から民生重視へと路線転換が始まった。

1985年末における対外債務総額は178億ドルであり，これに対して86年も最低38億ドルの償還が必要とみられている。

原油価格急落による外貨収入の減少にともなって，86年に借り入れが必要とみられている金額は約26億ドルといわれており，これが実現すると債務総額は86年末で200億ドルに達することになろう。

これまで，外国金融筋ではアルジェリアの経済運営に全幅の信頼をおいており，当国がリスク対象になるとの観測は聞かれていないが，油価低落の現状で200億ドルの債務負担は大きい。

対外債務の堅実な管理は，予算の黒字運営とともに，当国の経済運営の堅実さを表している。

1985年末における対外債務累積残高は178億ドル(国別内訳ではフランスが総額に占める比率19.5%，日本14.0%，アメリカ13.5%，西ドイツ7.4%)となっている。これに対し，85年の返済額は44億ドルと推定される。

5. 我が国との関係

5-1 政治,外交

我が国は,1962年7月4日アルジェリアの独立を承認,64年2月14日アルジェに大使館を設置し,またアルジェリア側も同年6月29日東京に大使館を開設した。また,1983年11月,日本アルジェリア合同委員会が設置された。

5-2 経済,貿易

日本からの輸出は機械類,自動車を中心に重化学工業品が8割をしめ,アルジェリアからの輸入は原油,LPGなどの資源輸入のパターンで貿易収支は基本的に日本側の出超となっている。

アルジェリアの開発計画,1970年代の重工業化路線,貿易相手国の多角化政策などにのっとってプラント機器,鉄鋼,船舶などの輸入需要に応える形で日本は重化学工業品を供給,輸入は原油輸入が増加し,貿易量が拡大し,80年代には輸出入とも1,000億円の大台を超した。

1980年代以降は同国での重工業偏重路線の転換,民生重視,軽工業振興などの政策変更にともない,重化学工業品のシェア低下,輸出品目の多様化傾向も出てきたが,近年は同国の外貨収入減,開発投資抑制,インバランス問題などから同国からの資源輸入が増大しない限り,貿易量は輸出入とも縮小し伸び悩み傾向にある。

〈商品別対日輸出〉

輸出品目構成比は,LPG57%,軽油33%,揮発油5%,燈油4%の順でこの4品目で全体の99%をしめる。

LPGは輸出量が5%増加したが,金額では価格低下により前年比18%減の7,340万ドルとなった。1985年に2,300万ドル輸出した原油は,油価急落へのアルジェリア側の対応遅れもあって,86年に輸出が停止した。

代って,軽油,揮発油,燈油などの石油製品が同国の輸出圧力,インバランス是正圧力を受けて,新規輸出品目として登録し,対日輸出全体のシェア42%をしめるにいたった。

〈商品別対日輸入〉

主要輸入品目は,電気機械24%,輸送機器16%,エンジン・ポンプ類12%,繊維製品11%,建設機械6%などである。重工業製品が8割,軽工業品が約2割をしめる。

重工業製品は全体で半減した。鉄鋼,金属製品,機械・機器類,自動車を中心とする輸送機器が軒並み5~6割減少したことによる。とりわけ建機は8割減と大きかった。

軽工業品はタイヤなどゴム製品が7割減となったが，全体では約2割減であった。

電気機械は，通信機器の輸入が3割減，逆にジェネレーター，自動車用電気機器の輸入が増加したため，全体ではほぼ横這いとなった。

〈1986年上半期の対日貿易〉

1986年上期の対日貿易は，輸出が前年同期比26.1%増の9,839万ドル，輸入が25.4%減の1億4,733万ドルとなり，前年同期に続き入超の動きに歯止めをかけた。

輸出/輸入比率は前年同期の39.5%から66.8%に達した。まだまだ入超幅は大きいにしても，この2年間貿易不均衡が急ピッチで是正されているのは，アルジェリアにとって好ましい兆候である。

日本サイドからみれば，貿易均衡上やむを得ないにしても，アルジェリアへの輸出が25.4%と急減をしめし，しかもその原因がプラントを主体とした重工業品であることは，プラント不況の昨今手痛い打撃となった。

5-3 経済,技術協力

我が国のアルジェリアに対する経済技術協力実績

	~昭和61年度(累積)	昭和61年度	昭和60年度
技術協力			
経費	14.78 億円	0.37 億円	1.17 億円
研修員受入	91 人	4 人	10 人
専門家派遣	874 人	5 人	0 人
単独機材供与	261.8 百万円	0.3 百万円	19.8 百万円
青年海外協力隊	0 人	0 人	0 人
調査団派遣	142 人	1 人	0 人
開発調査	6 件	0 件	1 件
プロジェクト方式技術協力	1 件	0 件	0 件
無償資金協力	3.00 億円	0 億円	0 億円
有償資金協力	120.00 億円	0 億円	0 億円

(出典:我が国の政府開発援助,1987年版,外務省経済協力局編)

注: 1. 「年度」の区分は,有償資金協力は交換公文締結日に,無償資金協力および技術協力は予算年度による。

2. 「金額」は,有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベースに,技術協力はJICA経費実績ベースによる。

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食　料

(1) 一般事情

この国の食料事情は,消費者側からみれば,結構食べていけるといえる。しかしながら,植民地政策から急速に改善されつつあるものの,主食の小麦や食用油の自給率は低い。政府は社会主義政策の一環として,国民の食糧確保のためになお輸入をしており,一方価格統制を行っている。最近の石油価格の低迷から,貿易収支も厳しい中で,食料自給は国家の最大の問題となって,重工業重点施策から農業重視施策へ大転換して,今日にいたっている。

アルジェリア人の食生活は,アラブ並びにヨーロッパの混合型である。日本人にとっては,一応食料の原材料もその食生活の型も適応の範囲内に入っている。だが,質と量,価格や入手状況(流通問題)に関しては理解し難く,不便を感じることが多々ある。とはいえ,積極的に原材料を確保し,料理法を駆使すれば,楽しむことができる。

具体的には,パンとじゃがいもの供給と価格は安定している。牛乳,食用油,肉類は豊富であるが,安定して入手できない。野菜,果物,魚は市場に行けば十分入手できる。

参考のために,アルジェリア人の食生活の一般的パターンは,パンが常食で,朝食はパンと牛乳,昼食は野菜サラダ,フライドポテト,夕食は野菜または肉のスープに,経済的に許される限り,肉,卵料理を加えるといった具合である。なお,豚肉は全くなく,意外にも魚はあまり好まれないので,この点日本人は一考を要する。また,ブドウ酒を好み,小麦粉で作る菓子類や果物の砂糖漬けなど,フランスの植民地であった時代の食生活を継承している。このほかに,クスクスなどのローカル料理も得意で,人々は十分に,かつ精一杯楽しんでいる。

例えば,最近,街の書店で,写真入りの料理の本がフランス語とアラビア語別冊で,また,菓子作りの本も出版販売されており,ともにアルジェリア人による著書である。現に,アルジェリア人のうち,アラブ系であれ,ベルベル系であれ,その家庭に招待されれば,共通のものに加えて,ローカルな独特の料理に出合い,きわめて興味深く楽しむことができる。

なお,開発途上国に住んで,依然として気になるのは,食品衛生上の問題であるが,この国については,高い次元での問題も加わり,一概に汚ないとはいえない。たとえば,農薬はあまり使用していないが,場所によっては,ハエ,ゴキブリがきわめて多く,薬剤による乱暴な駆除も

行っているからである。

また,一例として,缶詰め類の品質はきわめて劣っていることは確かであり,原材料の取扱い,製造工程と管理上の問題によるので,消費者としては,注意を怠たってはならない。

(2) 主な食料品の出回り状況

米は小粒のものが不定期に入手できるが,入荷量が少なく買いしめもあって,結局,日本米は貴重なものとなっている。パンは十分にあって価格も政府がコントロールしており安いので,アルジェリア人は毎朝新鮮なものを買い,その日のうちに消費して,翌日固くなったものを食べたりはしない。

他の麦類の製品として,スパゲッティ,マカロニなどの乾めん,クスクス粉末がスーパーマーケットで入手できる。なお,生のめん類も一部販売され始めたが,鮮度については不明である。油で揚げたじゃがいも(フライドポテト)も一般的で,パンを補っている。

肉類は回教徒のため,豚肉は全くなく,日本人としては,むしょうに食べたくなるから,ヨーロッパから製品を購入したり,また,うまく生肉を包装して持ち込んだりするとよい。マトン,山羊,牛,鶏は価格が高いところで良質のものを店の主人と仲良くして入手するのがよい。鶏卵の出回りはやや良くなったようであるが,必ずしも安定はせず,価格も高い。また,他の肉類の製品として,腸づめ類があるが,ローストチキンが一番無難である。

魚は特定の港(たとえばアインベニヤン)の店で入手できるし,海岸沿いの食堂でも注文できる。えび,まぐろ,いわし,イカ,鯛の一種は一般的で,これらの名前が日本語で話せるのはここぐらいのもので,日本漁業の偉大さに心地良くなり,いせえび,モンゴウイカなどの上等な魚を買うこととなる。いずれも鮮度は良く,氷漬けにしたり,冷凍庫を使ったりしている。

また,食堂の料理法は,乱暴で,量も多く,えび料理以外は日本人の好みに合わないので,自ら料理しないと結局は満足できない。鮮度がよいので,ものによっては刺身にすることもできる。

野菜の生産は,農林水産省および同省の野菜試験場,各生産農場の活動により伸び,マーケットも設置されつつある。一般に,2月に一部の野菜(たとえばトマトで,アルジェリア人の需用はきわめて多い)の入荷が減るくらいで,野菜も果物も周年供給されている現状である。すなわち,日本でポピュラーな野菜,果物は,熱帯産輸入もの以外は,すべて販売されており,独特な野菜に加えて,意外なものが入手できる。行商がなく,まだ小売店が少ないので,公共市場に出かけて行くのを億怯が

らねば，いろいろの種類の野菜，果物をシーズンごとに入手できるので，栄養保持の心配もせず，十分に楽しめる状況である。その意味で，やや詳し過ぎると思うが，JICA専門家の調査結果を別表に載せ，参考に供する。

〈参考資料〉

日本人のためのアルジェリアにおける野菜，果物の一覧表(利用編)

* JICA派遣専門家・根津光也氏の調査(1986－1987)による。アルジェ市郊外のスタワリ町野菜市場での調査。日本人の利用上の便宜並びに興味の参考となるように編集した。

Aグループ　日本でポピュラーでアルジェリアで豊富なもの
1. 野菜 トマト，レタス，ピーマン，パプロン，菜豆，きゅうり，にんじん，じゃがいも，たまねぎ，キャベツは特に多い。すいか，なす，エンドウマメ，芽キャベツ，ブロッコリー，カリフラワー，ニンニク，セロリ，オクラ 2. 果物 オレンジ，ブドウ，レモン，スモモ，あんず，キンカン，グレープフルーツ(pomplemouse)
Bグループ　日本であまりないもの
1. 特産物またはこれに準ずるもの まつたけ，乾ナツメ(Datte)，シイの実(Gland)，そらまめ(Feve)，青皮で甘いいちじく，びわ 2. 野菜 アーティチョーク(朝鮮アザミ)，南瓜の1種(コルジェ Courgette)，ウイキョウ(Fenouil)，甜菜(Betterave Potagere)，ニラネギ(Poireau)，赤ホーレン草(Epinard)，西洋ミツバ(Coriandre)，ユールラビ，ニガウリ，冬瓜，その他 3. 果物 オリーブ，さくらんぼ，ハタンキョ，洋梨，ココナッツ，クロスグリ，ライム，いちじく，ざくろ(Grenade)，スペインメロン，カンタロープ
Cグループ　日本でポピュラーでアルジェリアではあまりないか，全くないもの
1. 品質がよくない リンゴ，さつまいも，イチゴ，もも，スイートコーン(未熟トウモロコシ) 2. 日本人が好むもので現地で期待するが全くないもの さといも，ごぼう，らっきょう，はくさい，だいこん(Navetはある)，柿，枝豆，アスパラガス，キウイ，バナナ，マンゴー，アボガド，パッションフルーツ，リュウガンなど。生マッシュルーム(缶詰めは高価)，ピーナッツ(輸出した残りの悪いもので高価)

乳製品では,牛乳はポリ袋づめで販売されており,質も良い。他の乳製品,たとえば,ピザ用はともかく,直接食べるチーズはあまりおいしくない。おやつ用のヨーグルトは各種あり,アルジェリア人は家庭でつくる。バターの生産は少なく,行列して買わねばならない。マーガリンはある。幼児食に関連する粉ミルク,脱脂粉乳は多い。いわゆるベビーフードも若干出回っているが,質はまだ高くない。

日本人からみると,調味料はきわめて貧弱である。たとえば,トマトケチャップ以外はほとんど発達していない。食堂のオードブル野菜にかけている酢やマヨネーズはまずい。ひとことでいうと,ソース類の製造は少なく,また料理にもあまり使用しないといえる。日本人としては,全く現地にない醤油を始めとして,各種の調味料,インスタント食品を持参するのがよく,きわめて大切なことである。

酒類のうち,ビールは食堂およびバーで注文できるが,まずい上に高価で小瓶である。それに,アルジェリア人は,少しずつ時間をかけて,静かに飲むので,なんとも気まずい思いをすることがある。ウイスキーは高価なので,免税特権を利用して購入する。その際,缶ビール,缶ジュースを合わせて取り寄せるのが望ましい。申込みから入手まで約3カ月を要するからである。

大切な飲料水は,硬水のため,煮沸した後一夜置き,上層の硅酸塩類はよいとしても,下層に大量に沈澱する塩類はのぞくようにする。そのためには,現地で売っているクスクス料理釜やスープ釜の大き目のものを利用するのが賢いやり方である。これは,不時の断水に備えることもできるからである。また,ある程度,ボトルの飲料水を購入する。炭酸入りは少なくなっているので,特に注文する以外は,普通は炭酸なしである。ガラス瓶以外に最近ポリ袋ボトルが出回ってきた。

なお,現地はサハラ砂漠以外でも晴天で乾燥する日が多いし,特に夏季に所外で働く場合は1日1人当り500mℓは余分に飲んだほうがよい状態である。

(3) 食料の入手

日本食品の入手先はない。日本茶,しいたけ,海藻類(のり,わかめなど),干魚,梅干などのほか,インスタント食品のラーメンやスープ類および醤油などの各種の調味料は日本から持参する。菓子類として,チョコレート,ウェハースは各種多量に販売されているが変化にとぼしい。菓子の種類はパリ市でも意外と販売されておらず,日本のほうが進んでいるので,是非,日本製の各種各様の菓子(おまけ付きも含めて),新製品や許す限り上等の生菓子を持参すべきである。

また,買出しや日本から持参するものとしては,豚肉製品以外に,酒のつまみ,特に貝,乾魚,上等のコーヒー等を加えたい。

その他の食品の入手先として,パンは各々の店で売っている。穀類,マカロニ,小麦粉は政府の農業協同組合のような倉庫(マガジンと呼ばれている)で,十分に売られている。米はスーパーマーケットで時々売られているが,数量は少ないので,むしろアジア系の人々の倉庫で入手する。この種の情報は,アルジェリア人は意外に親切に教えてくれる。何事も裏には裏があるということ。

肉類と卵,野菜と果物,菓子,砂糖と缶詰め類,油などの食品の店は,各々一応独立した専門店をかまえている。しかし,野菜,果物を中心としている大市場でも政府の指導と元々アルジェリア人の交易好きなこともあって,一応たいていの食料は入手できる。これらの大市場(バザール)と専門店に対して,スーパーマーケットは日本のように発達しておらず,品目も限られている。極端にいえば,缶詰め類やビスケット,その他の日用品(石けんや料理用具など)が同じ店内にあるという便利さだけであって,とても買い物を楽しむといった状態とは程遠い。

任国に特有な入手方法としては,対人関係が大切なポイントとコツである。店の主人や主婦に直接尋ねるのもよいが,買い物は男がする国なので,友人に教えてもらうのがよい方法である。店の主人や店員も,商売がたきの気持ちはなく,物のある場所を親切に教えてくれる。特に日本人の好む食料については,かけ値なしにその情報を教えてくれる。この種の親切は,日本人に対する親切心と卒直に受けとるべきであって,分り切った事などを尋ねると,かえって警戒される。

また,チップをむやみに出すことは,つつしむべきである。もちろん,国民性の相違からお互いに不愉快な思いをすることはある。たとえば,子供にいたるまで,商人としてのしたたかさがあったり,大人で計算ができない者もいる。アラブ系の老人は売ってやるという姿勢が強いので,少年を選ぶほうが不愉快な目に会うことが少ない。また,子供のポーターなどはおらず,荷物をもったりしてくれる親切心は全くない。買出しは,車利用で,自分で運ぶ以外にない。品名と金額をいうには,英語は全く通用しないが,フランス語が十分通用するので,わざわざアラビア語を使う必要はない。結論としては,現地のアルジェリア人は,外国人とは,購買に関しては一線を画しているので,買い手としては,はっきりした態度,振舞いをするのがよいようである。

政府が価格を監視して値段の明示をしており,短期間に変更するので,品質が悪いからといって値切ったりするのは,きわめて良くないことである。

1－2　調理，食器具等

(1)　調理，食器具等の入手

冷蔵庫は家庭用のサイズのものが購入可能で，一応政府が価格をコメントしており，フリーザー単体のものは若干高い。アルジェリア人は，ミキサーやコーヒー沸し器などの電気製品について，フランス在住の親せき，友人を頼って購入している。米飯用の電気釜は全くない。なべはクスクス用の蒸し釜，スープ用の釜は立派なものがあり，サイズも10段階ぐらいある。フライパンもテフロン加工のものがある。

皿，コップ，フォーク，スプーンは現地の物で十分である。上等の陶器，ガラスコップ，包丁は貴重で，たとえば，陶磁器のセット物は客間に飾っているほどである。

なお，欠かせないものに袋類があるが，買い物用のしっかりした袋，ゴミ処理用の大きいポリ袋などあって，買い物をする際，大小のポリ袋はサービスしてくれる。また，包装用のラップ・フィルムや料理用のアルミニウム箔などはスーパーマーケットで入手できる。洗剤(化学洗剤，石けん粉など各種)と洗浄用具も化学製品を始め各種類あって，心配ない。

(2)　日本から持参したほうがよい調理，食器具等

調理食器類は現地のもので十分に間に合うと考えたほうがよいが，日本茶碗，はし，ガラス食器，小皿類は持参したほうがよい。米飯炊き用電気釜の大小，トースター，オーブン，電子レンジならびに魔法びんの上等なものなどは欠かせないであろう。特に電気釜は最も必要で，当地ではこの種の製品を使う習慣はないようである。燃料はプロパンガスと電気で，ガス器具は上等のものがあるが，ガスそのものの購入はボンベを自分でかついで買いに行かねばならないので大変である。電気とガスの両者は一長一短であるが，電気については，停電，電圧変化はあるが，自家発電装置やスタビライザーを家庭でも必要とするほどではない。なお，220Vで，コンセントも現地産で間に合わせてよい。

食生活全般として，アルジェリアの人々の家庭料理には優れたものがあり，たとえばクスクス(Couscous)やスープ類(Chorba)，ビスケット類(Gateaux)，果物の砂糖煮(Confitures)など学ぶべきものがある。また，野菜，果物，魚類は豊富であるので，現地産の食料と原材料と料理法に取り組む心がけが望ましく，またその努力は報いられよう。しかしながら，日本人の嗜好にどうしても適さない要素はもっている。それが，ベルベル人の独特のものである場合は逆に楽しい場合もあるが，アラブ系の乱暴な料理法であったり，フランス植民地時代のまねごとであったりして，精神的に受け入れ難い場合があることは確かである。

一般に食品の価格は日本のスーパーマーケットに比べて2~3倍高く，質の評価を計算に入れると2~5倍高いのではなかろうか。結局，ヨーロッパへの買出しが必要で，休暇を利用して，パリ市やバロセローナ市などに行き，食事を楽しみ，さらに食料を選んでくることは精神衛生の面からも望ましい。

1-3 外　食

(1) 飲食店

日本人がよく利用するレストランはアルジェ市内の中華料理店2店ぐらいである。在アルジェ市の日本人もかなり探索しているが，評判の良い店はなかなかない。日本料理店は全くない。したがって，フランス料理などに期待するが，大きいレストランほどインテリア，景観が美しい反面，料理の質と給仕の丁寧さがチグハグで，料金も高く，がっかりしてしまう。これは，優秀なコックがおらず，量·質的にセンスがないためといわざるを得ない。

たとえば，野菜サラダの量が驚くほど多量で，まずいマヨネーズや強烈な酢をかけていたり，フライドポテトの大サービス，まぐろの大ステーキなど，みただけでうんざりして食欲が減退する。かなり注文をつけても理解できないし，塩からくないのがせめてもの慰みと考え，こっそり(堂々とするとよくない)醤油を持参して，自分で味をつけるのがよい。この矛盾は，食性の違いによるとするよりは，店の主人の経営方針や料理の質が値段の割には不釣合いであると考えて，なるべく小さい専門店を探すほうがよい。

(2) その他の飲食店

小じんまりした店で，特に魚料理専門の店は海岸沿いの町にあり，ベルベル人やイタリア，スペイン系の外国人の個人経営のレストラン，スナックを探せば，かなり満足できる。つまり，大きい有名なレストランより，少し小さい店のほうが日本人の期待と趣味に合うといえよう。

バーについては，ホテルに附属しているバーでビールが飲める。地方の町のバーにはビールはなく，コーヒー，ハッカ入り砂糖湯もどきの茶，質の悪いジュースが主である。ビールは高価でまずい。いずれの店でも男ばかりで，黙ってチビチビ飲み，小さい瓶や小さいカップの茶で1時間以上もねばる。女性はアルコール類は飲まない。大声で話す人もおらず，歌を唱うなどはもってのほかである。もちろん，外国人として歌うことは絶対許されないというほどではない。

食生活

衛生状態は一見すれば,大きい店ほど清潔であるが,断水ともなれば,調理室の不潔さには驚くばかりである。地方の町のそれは汚ないというほかない。

2. 衣　料

2-1 衣　料

(1) 一般事情

アルジェ市などの沿岸地帯の気候は,温暖な地中海性気候で,南日本のそれに似ている。夏季の7,8,9月は暑く強い晴天が続くが,日本の夏のようにむし暑くはない。一方,冬季も南日本のようであり1,2月もさほど寒くはないが,強風に見舞われることがある。いわゆるスペイン風というものである。

また,サハラ砂漠の影響を受け,40℃以上の異常気象となることもある。サハラ地帯の都市は日中と夜間の温度差がはなはだしく,夜間は0℃で,日中は45℃となる。その厳しさの実態は,石油採掘事業などにたずさわっている人々でなければ,とうていわからない。また,雨は,衣料事情のみからいうと少ないといえる。したがって,アルジェ市などの人口密度の高い海岸地帯の都市は,一般に過ごしやすい気候である。そのため,服装については,身を守るには,春から夏,秋にかけては,男性はノーネクタイ,ワイシャツ姿,女性はワンピースというところ,冬季は寒さと風よけのためのジャンパーコートやレインコートの類が役立つ。雨傘は必要ない。

さて,観点をかえて,着飾ることについては次の通りである。アルジェリア人は民族的に,ヨーロッパ系とアラブ系の混合にベルベル人が存在する状態とみてよいが,貧富と年令差による自由な趣味に対して,社会主義や宗教上の慣習が強く影響しており,各自各様の服装をみることができる。

具体的には,地位の高い人,金持ちは,背広にネクタイ,ドレスも上等であり,ヨーロッパで仕立てるといった調子である。一般の人はラフな服装で,若い男性は,各自の趣味に合わせて,上衣と柄ものの替えズボンを着用したり,スポーツウェアに人気があったりする。若い女性は,きわめておしゃれで,パリモードをめざして,ブランド製品,特にドレス1枚のために1カ月分の給料をはたいたりする。イヤリング,ブレスレットなどの装飾品やモダンな靴も無理をして購入する。

また,仕事着について以下に述べる。仕事着としての制服(ユニフォーム)は尊ぶ人もおり,また逆に反発する人もいる。ホテルの従業員に例をとると,ホテルは国営であり,職種と階級によって服装が細部まで差があり,軍隊の場合どころではない。したがって,一般的には,自慢したり,あこがれたりするのが普通であるが,ポジションの低い者はどう思っているのかは本人でなくとも分かる。それで,一端家庭や休暇に入ると,民族的,宗教的な服装に徹するといった具合である。

衣　料

男女ともに回教徒の服装が幅を効かしている。学校の女性教師は回教徒調である。女性の服装に対して,社会的な規律,慣習は依然として厳しく,外出時は,白いかぶりものをしているが,内身は驚くほど華美であったりする。

現地で購入できる衣料の一般的な品質はあまり良いとはいえず,上等のものは法外に値段が高い。つまり,質と価格がアンバランスである。綿製品が意外に品質が粗雑である反面,化学繊維の見栄えのするものが高価であったりする。特に,アンダーシャツやパンツなどの下着類は良質のものはない。また,ケミカルシューズは高価で,質はきわめて悪いし,革靴でもよいものはない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

日常用の上着,ズボン,作業衣は,現地で購入するのもよいが,靴は日本製がきわめて優れている。紳士用の上等の背広は是非必要。婦人用としては,アルジェリアでみられるワンピースやローカルな着物をみると,デザインは直線裁ちの大胆な柄物であり,若い女性はその趣味も大胆かつ自由である。しかもパリの流行が最高だと信じているきらいがある。

一方,参考までに述べると日本の着物は,アルジェリアの男女のあこがれの的であり,購入についてしつこく聞いたり,交渉したりする。値段とその価値を全く知らないので,もし持参したければ,帯などの付属品にはあまり金をかけず,10万円程度の安物の華やかな振りそでを試み,楽しむのも面白いと思う。子供用,乳幼児用は,軟らかい下着類や運動靴が必要であり,日本から持参する。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

実用品としては,仕事着,ジーパンである。また,婦人用のワンピースには,デザインの良いものを選び,ネグリジェを購入するのもよい。土産物,記念品としては,ベルベル人のロングドレス,ラクダのコート(カシビア・ド・シャモル)など民族色豊かなものがある。

(4) その他留意すべき事項

日射しが強いので,戸外労働では帽子が必要である。アルジェリアの人々は,アラブ系の老人以外,帽子をかぶる習慣がないので,外国人は困ってしまうが,しかし,遠慮せずに着用してよい。アルジェリア人はスポーツが好きで,盛んなので,運動帽の類を利用すると抵抗が少なく,当方も気がひけることが少ない。女性用として,つばの広い帽子などはほとんどみられない。

2-2　礼　装

(1)　パーティー

現地の人々からパーティーや食事に招待された時は,家族構成や出席する友人などを前もって聞いて,その程度に適宜合わせる。服装について具体的に検索してよい。家庭に招かれる場合,特に父親の招待だという時は,最高のもてなしとみてよく,外国人らしい簡素でしかも上質の服装が好ましい。政府の高官などが主催する個人的パーティーはない。公式のパーティーについては,在アルジェリア日本大使館,または日本人会主催のそれでも遠慮なく問合わせてよい。一般に,あくまで洋装が主体で,男性のタキシード,モーニングなどや,婦人のカクテルパーティー用のロングドレスなどは不要である。しかしながら,なるべく上等のもので,若い女性の自由なセンスのある服装は好ましい。

(2)　式典

任国の祝祭日で,一般人が出席する場合は,その催しによって服装が決められることがあるが,外国人は強要されることはない。

また,日本の祝祭日を現地で祝う場合がある。正月(松の内)などは,日本大使館,日本人会主催のパーティーがある。配属機関では祝祭日は休日となるのみで,外国人が参加しなければならない行事は特にない。しかし,任国や外国の高官の来訪が多く,その場合は,上等の背広かまたは場合によっては,りりしい作業衣が望ましい。

(3)　その他の冠婚葬祭

結婚式の披露宴は,夜間に特定の会場,たとえばレストランを借りて華やかに行われる場合があり,ヨーロッパの中世紀のパーティーもかくやと想像される婦人の服装を観ることができる。華やかな帽子,コルセット入りのロングドレスといったところである。

一方,葬式については,外国人の参列は許されない場合が多い。配属機関で公式葬とされることもあるが,服装は平服であったり,特に日本のような画一的な状態ではない。なお,相当の知己でなければ遠慮したほうがよい。

(4)　その他留意すべき事項

極端に格式ばったものは必要でない。要約して,フォーマル,カジュアル,普段着,仕事着,スポーツ用の各々について,上質なものを各1着用意しておけば,効率がよい。

2-3　洗濯,仕立て,修繕,保管

(1)　洗濯

クリーニング店として,専門のドライクリーニング店がある。人口3万人以上で商売が成り立つようである。ホテルには専属のスピーディーにやってくれる店はなく,メイドに個人的に依頼する。

もちろん,勤務時間と労働日数など詳しく知って,長期滞在の場合のみに適用できる全く個人交渉のやり方である。

洗濯の程度は丁寧で,化学洗剤に関わる知識(濯ぎを十分にすることなど)や,アイロンの温度と生地の関係などについては,説明しなくても知っているし,実際によくできる。問題は雇用が難かしいことである。ホテルのメイドも国の労働許可を得て,従事日数が決められており,若い人の実態をつかんだ上で,いわゆるアルバイトを探すことが難しいからである。結局,家族連れの日本人が個人的にメイドを雇うことは,人探しと賃金が高いことでほとんどその例をみない。したがって,必然的に主婦の負担は重くなるので,アイロン,洗濯機,干し物専用の部屋の設置は必要である。

(2)　仕立て,修繕

紳士服,婦人服ともに既製服中心である。仕立て屋もいるが,賃金も高い。婦人服のデザインではみるべきものがあるが,地元で注文できるかどうかは不明であり,仕立てる必要もないところである。

小さいほころびやボタンの欠除などは主婦の仕事で,単身赴任者および独身者の男達は,自分でするのが一番よい。配属先では,親切心かどうかわからないほどに,服装のみだれを注意するが,その割に,補修など全く念頭にない。独身者同志の関わり合いに触れることなど考えられ,結局自分でするか,下着などは早目に替えることである。

(3)　保管

湿度が低いので保管は心配ない。日本から持参した特別の衣料などを含め,日本流で十分である

3. 住　居

3－1　住宅事情

(1)　一般事情

きわめて厳しい。独立戦争の結果,一般の民衆は,フランス人を主とする約100万人の入植者(コロン)が放棄した住宅に,われ勝ちに入居したとのことである。このことについて,外国人はその時の経過や入居のルールについてあまり詮索しないほうがよい。アルジェ市内には,スラム化一歩手前という住宅街もかなり多い。地方の都市,小さい町に,往時をしのばせる大農場に建てられた邸宅や附属の建物,海岸沿いのしょうしゃな別荘が,修理されないまま乱暴に使用され,みる影もないものもある。

一般に,アルジェリア人は,家族2~3世代に親せきの一部が加わって雑居している場合が多い。働ける者に皆んながぶらさがっているわけである。最近になって,個人によるマンションの建設,外国援助(たとえばデンマーク)による近代的アパートの建設が進んでいる。一方,政府独自による建設も盛んであるが,施工が重点的でないように観察される。たとえば,内装や電気などの内容が不十分のまますでに入居している場合もある。公務員は宿舎に入ることができるし,住宅手当もあるが,入居競争はきわめて激しく,住居確保のために職場を変更する例もある。結婚がおそくなっている理由の第一に住宅問題を挙げている。

日本人で,独身者あるいは単身赴任者が,食事付きの下宿など,便利な住宅に入ることは不可能に近い。家族連れは,高級住宅(個人建設のマンションなど)を探せば入居できる。それにしても,お手伝いさんの確保,家主との交際,近所の環境など,なかなか満足できる物件がなく,特に家具を揃えるのが大変である。比較的良いことは,ピストル強盗などがいないことではあるが,道路(特にアルジェ市内の迷路)と通勤順路などの関係から,住居の設定は苦心を要するところである。

(2)　ホテル事情

ホテルはすべて公営であり,見かけだおしである。外国人は外貨払いで料金も高く,大抵の外国人客はギブアップする。日本人もご多分にもれず,せっかく用意しても苦情をいわれるのがおちである。たとえば,断水ともなれば,自分で水を確保する以外に手の打ち様がなくなるからである。アルジェ市内の大ホテルや,リゾート地帯の大ホテル群(コンプレックス)に長期滞在および赴任当初の利用は可能である。しかし,日本人がよく利用するホテルは定まっていない。

それも,ホテルの大半は独立戦争後に建設されたもので,大まかな設

計のためと，管理のふゆき届きのために，停電，断水はあとを絶たず，従業員のサービスはしゃくし定規だし，ポーターがいない，各セクションの連携がないことなどの理由による。

さらに，日本人のみならず外国人の長期滞在者にとって不便なことは，ホテルが政府の管理下にあることで，観光グループ，特に共産圏の国からのグループの受入れ，スポーツ大会，労働者大会などが度々催され，その都度，ホテルの経営方針がグループ優先となることである。その最たるものは，まれに行われ，しかも外国人にとっては突発的と思われる政治集会である。外国との外交上の集会並びに地方議員の大会議である。これは政府の至上命令であるので，軍隊がホテルを占拠し，警察や秘密警察の管理により，ホテルの客およびホテル附属のアパートの入居者は強制的に退去させられる。こうなると個人的な交渉に監視員の目が光り，交通のしゃ断，電話連絡などが不能となるので，逃げだす以外にない。ホテルは公営であることを忘れてはならない。

(3)　住宅の捜し方

この項未調査

(4)　住宅の選定上の留意点

この項未調査

(5)　住宅の契約

この項未調査

(6)　居住上必要な事項

この項未調査

(7)　その他

ホテルの客室や付属のアパートは，従業員が入居している。いわゆる転用であるが，政府は黙認しているようであるので，このことについてもあまり詮索しないほうがよい。また，気をつけねばならないのは，警官が平常時でも巡回していることで，常に堂々とした行動が望ましい。特に，外貨のヤミ交換を取り締まる秘密警察の存在は忘れてはならない。つまるところ，ホテルの管理責任やサービスに頼らず，またチップなどの効果も期待せずに，安全は自分で確保することで，安全は金で買えないといえよう。泥棒も時々いるので，部屋の鍵は常にかけ，アポイントメントのない者に応答しないなど，在・不在を明らかにしないほうがよく，内部をうかがわせないように用心したほうが無難である。時と場合によっては武力をもって対処することもやむを得なくなる，ともいわれている。

4. 医　療

4－1　赴任前の準備

(1)　予防接種
　イエローカードの提示は必要ない。

(2)　その他赴任前に準備したほうがよい事項
　コンタクトレンズ，歯科治療が必要。

4－2　医療事情

(1)　医療機関
　日本大使館に医務官が在勤。

(2)　緊急時の対応と措置
　日本大使館に医務官が在勤。

4－3　医薬品等

(1)　携行することが望ましい医薬品
　ビタミンC製剤。

(2)　任国で調達できる医薬品
　ほとんどが調達できる。

(3)　任国で調達できる衛生用品
　この項未調査

(4)　医薬品を使用する場合の留意事項
　薬剤師に化学成分をきいて，自分で効用を確かめて使用するほうがよい。

4－4　妊娠，出産，育児

(1)　妊娠した場合の対応
　この項未調査

(2)　出産後の対応
　この項未調査

(3)　育児
　この項未調査

4－5　手術

(1)　任国で可能な手術
　この項未調査

(2)　手術設備の状況

手術を要する場合は，パリ市へ移送される方針に従うこと。パリ市までは2時間くらいである。航空機の便は良い。

(3)　その他手術，入院時の留意事項

この項未調査

4－6　任国でよくかかる傷病

(1)　一般の疾病

すべての疾病について，在アルジェリア日本大使館付の医務官の調査結果を参考とすべきである。また，会社関係の派遣医師の情報によれば，日本人労務者の宿舎で赤痢が発生したことがある。小児に関する疾患，特にインフルエンザ，はしか，百日咳，風疹などについても確かな情報を入手すべきである。

一応，現地において素人が見聞きした印象は下記の通りである。

皮膚病はみられないが，外傷を手当てせずに自然治癒に任せている場合が多い。眼の結膜炎は意外に多く，砂あらしによると思われる。トラホームもみられた。

消化器の病気は，飲料水との関係で，日本人としてはやはり一番注意する必要がある。たとえば，日本人がよく利用する中華料理店においても，まれに腹の調子が悪くなることがあるので，無難なものを注文すべきで，在アルジェリア日本人のアドバイスが必要。缶ジュースは止めたほうがよく，ミネラルウォーターのボトルが最も安全である。

また，アルジェリア人医師の診断例は，戦争および交通事故による傷害が一番多く，次いで肝臓ジストマ，良性腫瘍，胃かいよう，リュウマチであった。JICA専門家が配属されるような機関では，総務部人事課のようなセクションが公傷に関する事務手続きを掌握しており，小さい傷害や腹痛，風邪などの薬は常備されている。

(2)　風土病，伝染病

マラリアはない。一時，コレラ騒ぎがあった。日本出発時においてのコレラと破傷風の予防注射は，念のためしておいたほうがよい。

(3)　有害動物，病害虫

蚊はごくまれにいるが，病原体を保有していないとのことであるので，マラリアなどについて神経質になることはない。ハエ，ゴキブリは場所によりきわめて多い。ハエは町のアイスクリーム販売機に群がり，蜂蜜などの糖分を含む菓子類にも多い。ホテルや公営のアパートなどのごみ処理，害虫駆除は規則正しく実施されているが，どうしても台所などにはゴキブリが絶えない。形は，成虫で1cmくらいで，1回の

薬剤噴射で約100匹くらい捕獲できる。肉類に一番多く群がるので，湿ったまな板に生肉の汁をこすりつけ，集まった時に，押しつぶす方法が効率がよい。冷蔵庫にもぐり込む場合もみられた。

また，蟻は，庭やベランダ(バルコン)に多いが，さほど強烈なものではないし，ホテルなどでは薬剤により，よく駆除されている。ムカデ，蜜蜂の害を聞いたこともある。毒蛇，毒ぐも，サソリ，毒蛾などの害虫や，ネズミなども少ないようであるが，これらはすべてアルジェ市および気候の良い海岸沿いの地帯のことであって，サハラ砂漠などの情報ではない。

4－7　保健衛生

(1)　飲料水

この項については，1－1食料 (1)食料の出回り状況の項を参照。

(2)　濾過器の入手法

この項未調査

(3)　その他保健衛生に留意すべき事項

アラブ系は親しい間柄ではキスの習慣がある。日本人はこの習慣にしたがう必要はない。しかし，親しくなると，子供(6才までの児童)からキスされるようになる。すなわち，親が子供に命じたり，当方に催促したりする。キスの程度は，その親密度と関係することはもちろんであるが，アルジェリア人同士では，大人が他人の子供の口に直接キスする場合もある。したがって，衛生的には，日本人として，耳や頬を常に清潔に保ち，子供のキスはすぐさまにしかも一方的に受けて，「メルシー」を連発して逃げるか，こちらからはキスする代わりに，抱きしめたり，額をくっつけるなどの他の方法でお返しするのが良いと思う。

また，回教徒の左手不浄の掟はないし，外国人の作法についても寛容である。しかし，彼ら自身は礼拝のあとは顔や手足を水で洗い，石けんは決っして使用してはならない規律を守っている。

トイレは水洗式で，紙がないことが多く，便座のないタイプもあるが，ある場合はその清潔度には注意を払うべきである。用をたした後は，備えつけの水さしで洗い，あと手持ちの紙で処理することをすすめたい。

5. 教　育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

アルジェリア政府は教育にきわめて熱心である。現地の学校は満6才で入学し,義務教育は9年間である。さらに上級の学校を含めて,就学年限は日本の制度とよく似ている。ただし,男子はナショナルサービス2年間の義務があり,この2年間のうち兵役は6カ月で,残る1年半は社会奉仕などの活動である。

第1国語はアラビア語,第2国語はフランス語である。学校の授業は,アラビア語主体で,フランス語は,上級の学校ほど重視されている現状である。中学校では英語も若干教えている。これに対し,家庭では,各民族の系統によって言語の使用頻度が大幅に違い,ある家庭はフランス語,ベルベル語に固執している。若い層からアラビア語が多く話されるようになるであろうし,アラブ系はアラビア語のみで,フランス語は上手でない。

また,ヨーロッパ各国の言葉を求める傾向が強い。これは民族の系統と各自の希望や人生計画と深い関係がある。英語,スペイン語,イタリア語が多く,またドイツ語,アルバニア語などでもある。社会主義国の言語は意外に少ない。この言葉の問題は,教育振興を大きく取り上げている政府にとって重要な問題であることは確かである。

さて,現地の学校の状態であるが,小中学生と話した結果は次の通りである。教師は生徒をたたいたり,また神経質な教え方をしていない。生徒自身は,中学生程度になると煙草を堂々と吸ってみたりするが,あまりやかましくいわれない。下校時にアイスクリームを買って食べながら帰ったり,スポーツが盛んで皆明朗である。いじめっ子はもちろんいるが,陰湿でないのも注目に価する。一方,校舎や設備はきわめて不足し,授業も3交代制で,休暇期間が長くて一定していないようである。

(2) 日本人学校

日本人学校はある。しかし,低学年が多く,幼稚園も併設している。父兄は児童の送り迎えに教師とともに大変苦労している。

(3) 現地校,外国人学校

この項未調査

(4) 幼稚園

この項未調査

5－2　入学手続きおよび授業料

(1)　日本人学校
　　この項未調査

(2)　現地人,外国人学校
　　この項未調査

(3)　幼稚園
　　この項未調査

5－3　教育関係施設

(1)　図書館
　　この項未調査

(2)　スポーツ施設
　　この項未調査

5－4　家庭学習

(1)　家庭教師
　　この項未調査

(2)　通信教育
　　この項未調査

(3)　携行したほうがよい家庭用学習教材
　　この項未調査

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

雇用に要する給料が高く，また適当な人がいないので，ほとんどの日本人が雇用していない。結論的には，きわめて難かしく絶望的であるといえよう。

一般に，アルジェリアの人々は，命令されることや教えられることをきわめて嫌い，いわゆるプライドが高く，さらに個人的な要求(現地の人々は英語でビジネスという)はすべて商業的で，しかもしたたかであるので，まことに使いにくい。結局，時間給で雇用するのが一番適当であるが，食事の文句や通勤の便などの障害を乗り越えてまでして雇用する価値はない。

特に子供のいる家庭では雇用を継続することは不可能に近い。すなわち，日本人家庭は他の開発途上国で経験するような無知，怠惰，盗みなどのわずらわしいできごと以前のアルジェリア人特有の性質や背景となる社会条件に苦渋をなめさせられている。さらにいいかえれば，各職種(運転手，メイド，庭師，ガードマン等)について，旧植民地政策を雇用者側に有利な方向で楽しんだり，利用したりする期待は全く存在しない。むしろその施策の後遺症や社会主義の理解不足による弊害面で悩まされる。

ほかの開発途上国でみられる苦しいが考えようによっては滑稽な(コミックな)できごとが起これば楽しいこともあるが，この国は全くないと断言できる。

しかしながら，目をつけた雇人の家庭事情，特に経済状態をよく考察すれば全くいないということではない。たとえば，未亡人が意外と多く，親切である。しかし，このような人を見つけたとしても，世の苦労を重ねた現地のお母さんを使うには，こちらもそれ相当の苦労を経験しておらねばならず，日本人としては，海外経験5年以上でなければ無理であろう。若い奥さん方は，初めから止めたほうがよく，他の国の雇用に期待する程度の試行をされることをすすめる。

6－2　運転手

(1)　雇用

この項未調査

(2)　日常管理

この項未調査

(3)　教育指導

この項未調査

(4)　その他の留意事項

この項未調査

6－3　メイド/サーバント

(1)　仕事の人数と種類

この項未調査

(2)　雇用

この項未調査

(3)　日常管理

この項未調査

6－4　庭師，ガードマン等の雇用

(1)　雇用

この項未調査

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

庶民の足は,自家用車,バスおよびタクシーで,モーターバイクと自転車はきわめて少ない。配属先の通勤は公用車をフルに運用しており,地方への出張は国内航空機を利用する。

道路の舗装などの状況は良いほうであるが,アルジェ市内の迷路はひどい。警察および憲兵隊による交通整理は各地で行なわれ,特に政治に関わる場所では厳しい。ラッシュ時になると信号のある交差点でも,動きがとれないほど混乱する。いわゆる"突っ込んでくる"というもので,マナーが悪いのは,民族性のうちの闘争心,エゴイズムの表われとみられる。警官もまた横暴である。

バスは超満員かガラガラであるかのどちらかで,経路の表示がないので利用するには余程の力を必要とする。頼りになるのは,タクシーであるが,台数はきわめて少ない。利用するコツは次の通りである。

独立戦争の功労者を優先して運転手に採用したので,在郷軍人会の運転手が幅をきかせ,力の強い者はメーター付の車を有する。プライドが高く,ホテルなどに駐車して偉張っている者もいる。しかし,流しのタクシーは街角のTaxi Stopで順番を待てば拾えるし,さらに裏をかいて,自由ないわゆるもぐりのタクシーを特定のたまり場で拾うこともできる。より有利な客を拾おうとして,むこうから話しかけてくる。民族の系統を顔で選び,車の状態や服装,マナーを参考にする。ベルベル人は話好きで,運転技術も良い。

なお,相乗りは,客の了解なしに,どんどん勝手に運転手が決める。働いている場所の名称を告げたり,滞在期間を長目にいうと,料金をごまかされない。たまに,ひどい者がいるが,大ていは愉快な者たちである。

(2) 自家用車を利用する場合

この項未調査

(3) レンタ・カー等を利用する場合

この項未調査

(4) 道路マップ

この項未調査

7-2 交通事故

(1) 対処方法

この項未調査

(2) 救急病院

この項未調査

(3) 盗難

自動車そのものの盗難は少ない。しかし,単車は車庫やビル内の廊下などに駐車するのが安全である。車中の物品を盗む車上ねらいが頻発している。その手口は乱暴で,ガラスをぶちこわして,内部のラジオなど取り付けた装置を強奪する。ガラスの損害のほうが大きいので,車中に物を置かないようにする。たとえば,ミュージック・オーディオセットは取りはずせる構造にしておき,駐車時には取りはずして保持,携行するように,各自各様の事前防止を図っている。事故といっても交通事故による対物保険は一応処理されているが,どうにもならないのが現状である。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

この項未調査

(2) 対処方法

この項未調査

7-4 車の修理

(1) 部品

この項未調査

(2) 修理工場

この項未調査

7-5 燃料等

ガソリンは,レギュラー,スーパーともに入手しやすく,ガソリンスタンド(スタシオン)も多い。エンジンオイルは高価である。

バッテリーは再生物など粗悪なものが流通しており,新品のヤミ値は約3倍以上と高い。ドライバーは他の開発途上国の例にもれず,スターティングの知識に乏しく,技能は低く,結局バッテリーをあげてしまったり,スターターを傷めてますます重症にしている。

8. 通　信

8－1　電　話

(1)　一般事情

この項未調査5

(2)　国内電話

電話はダイヤル自動交換式で,役所は交換台取りつぎで一部直通回線を有するのが一般的である。公衆電話は郵便局,ホテル,空港などのビル内に設置されている。公衆電話はあらゆる点で全く当てにならない。たとえば,コインがひっかかって溜っており,なぐるとザラザラと出てきたり,コインを入れても通電しなかったり,混線など機能的に品質が悪い。また交換手は怠慢であるといわざるを得ない。したがって,公衆電話から根気よく試みるか,配属先の交換手に午前中に依頼して通話する。緊急事態に電話に頼ることはむしろ危険で,別の方法を試みたほうがよい。緊急の用をなさないからである。当方の場合でなく,緊急が政府の側にある場合,たとえば軍隊が一定地域に出動した時は,作戦上電話線を自由に切断,切り換えする。おまけに復旧がおくれたりして一般に迷惑がかかる。そのような時は公衆電話も通話禁止の処置をとるので,あきらめることである。一般の人々は真に辛棒強く通話を試みる。

(3)　長距離電話(国際電話)

国際電話も,声が小さくて難しい。しかし,日本大使館のように整備された電話機を使用する場合,8時間の時差と通話先の勤務または在宅時間を考慮すると,当方は午前9時に発信するのが最も良いようである。

8－2　電信

(1)　テレックス

電話よりテレックスに頼ることが多い。テレックスは,役所や旅行社などが持っている。本項調査者の配属先(農林水産省,野菜栽培開発研究所)では,全国に試験場を持ち,援護機関も多くあるので,通信はきわめて頻発に行っている。それは,特に資材の供給,たとえば肥料,種子,野菜の苗,諸々の資材の数量と配布地域について記録をとらねばならないからであり,将来はファクシミリが必要な状態である。

なお,公用は,すべてフランス語であり,英文は受けつけず,内容については係および長官(所長)の決裁を必要とすることはもちろん,日本への通信には難渋する。これは,配属先が不親切だということではなく,

国情によるのである。したがって,郵便局から電報を打つのもひとつの方法である。この場合も,カウンターパートに依頼して,作文してもらうのがよい。フランス語の作文,略号で字数を減らすことが大切で,ローマ字でごまかすのには限度がある。

(2) ファクシミリ

この項未調査

(3) 電報

この項未調査

8-3 郵便

(1) 一般事情

局員の規律が良く,親切であり,配達の事故はきわめて少なく,信用できる。日本からの封書郵便物は,4~10日間を要し,大抵は7日間くらいである。これは,アルジェ-パリ間の航空便が毎日10便くらいあることによると思われる。

さて,アルジェ市の中央郵便局はその名もGrand Postという立派な建物である。各々の係が厳重かつ丁寧に事務をとっており,利用者は案内係に郵便物の種類や希望をいうと,親切に教えてくれる。特に,投函する直前にチェックしてもらうと,シールなどをサービスしてくれたり,すべてがスムーズに処理できる。地方の郵便局(支局)は個人的に親しくしておくとよい。しかし,支局はそれだけあって,若干理解し難いことがある。たとえば,切手の種類が不足していることが多く,切手代は正規の料金以上に手持ちの切手で決められ,普通は端数切り上げとなる。

また,係や案内の表示はアラビア語である。小包はあらかじめ通知書(到着の知らせ)が配達される。なお,手紙は検閲されることがある。

(2) 課税

この項未調査

9. マスコミ

9-1 新聞

立ち売りである。フランス語,アラビア語だけのもの,両語併記のものがある。内容は政府の宣伝的な記事が多いものの,スポーツ,文化等の記事も多く組まれ,求人広告,写真や論文,小説もある。最近多いニュースは中近東などの戦争の状況が大きい写真入りで報道されている。また,国際間のスポーツ,特に自国のサッカーのスポーツの進行状況,人気女優の紹介など華やかである。

(1) 主な日刊紙
この項未調査

(2) 本邦日刊紙
この項未調査

(3) 欧米紙
この項未調査

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局
この項未調査

(2) ラジオジャパン
この項未調査

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送
この項未調査

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局
この項未調査

(2) テレビ受信
この項未調査

10. 教養,娯楽,趣味,スポーツ

10－1 映画,演劇

(1) 映画館

この項未調査

(2) 劇場

この項未調査

10－2 出版,書籍

(1) 一般事情

専門の書店がある。独立戦争の歴史,イスラム教関係の本が特に多い。観光,小説,詩集,数学などの書籍は多少ある。最近の観光関係の写真集にはかなり立派なものである。また,最近アルジェリア人自身の著者によるもの,フランスで出版した科学書も漸次現われてきた。なお,子供向けのイスラム教本や童話絵本,婦人服の型紙も販売されている。

(2) 書店

この項未調査

10－3 語学学習

(1) 語学学習施設

この項未調査

(2) 家庭教師

この項未調査

10－4 文化活動,文化施設

(1) 一般事情

この項未調査

(2) 日本・仏国友好協会等の有無と活動の内容

この項未調査

(3) その他の文化活動,文化施設

この項未調査

10-5 写真,ビデオ

(1) 写真

フィルムは35mm,カラーフィルム(ネガ用),24枚撮りが一般的で,36枚撮りはない。価格は日本より若干高い程度で安定している。他の外国製フィルムで,需用の多いものはヤミ値が3倍程度になる。スライド用カラーフィルムは販売されていないし,アルジェリアでは現像できない。また,白黒フィルムはきわめて少ない。

D.P.E.サービス店はあるが,プリント代は日本の数倍と高い。D.P.E.の技術は店によって差がある。現像,プリントともに使用薬剤の使用法による仕上りの悪さや,裏焼きなどの不注意がある。時々大失敗することがあるので,貴重なデーターを撮る時は2本使用し,日を替えてD.P.E.するか,またはパリ市などで行うほうが安全である。日本での仕上りと同程度の結果がえられる確率は約10%である。なお,写真機用の電池は現地のものはよくない。

(2) ビデオセット

この項未調査

(3) ミュージックテープ

主にアラビア調である。男性歌手による流行歌,30分ものが主体で,テープ,録音技術の質は劣悪で,価格は50ディナールである。約200種類のテープが販売され,専門店の外,本屋,日常雑貨店,菓子類など,子供用の販売店にあわせて売っている。試し聴きは自由であるが,店の宣伝用に使用しているので,まず新品という状態のものはない。CD,LPはない。

10-6 音楽鑑賞,演奏,民族楽器

(1) 音楽会,コンサート

この項未調査

(2) コーラス,演奏グループ

この項未調査

(3) ピアノ等

この項未調査

(4) レコード

この項未調査

(5) 民族楽器

この項未調査

(6) その他の楽器

この項未調査

(7) 一般事情

近隣諸国からの演奏グループもよくきているが,地元のベルベル人の音楽才能はきわめて優れており,聴く価値がある。しかしながら,音楽会,コンサートは野外会場で行われる場合が多い。問題は,演奏設備の調整時間が長いのは楽しいが,ボリュームを最大限にアップするので,着席する場所を選ぶことであり,特にディスコでは注意したほうがよい。全般を通して,一部のローカル音楽は探索すべきであるが,鑑賞なるものはこの国ではあきらめたほうがよさそうである。

10－7 手芸,絵画,美術工芸

(1) 手芸

この項未調査

(2) 絵画,美術工芸

ベルベル人の民族衣装や装身具の手づくりのイヤリング,ネックレスなどはエキゾチックである。木製の家具類でデザインがこったものがある。モザイクタイルについては建築との関係で興味を持つ方も多いと思う。

10－8 趣味

(1) 園芸

アルジェ市では家庭菜園は無理である。観葉植物の種類は少ないので,むしろ,地中海沿岸の植物に興味をもち,植物園や海岸の野花を観賞されるとよい。

(2) 釣り

漁業はほとんど個人経営であり,シディフェリッシュは有名なヨットハーバーで,漁船＝ヨットと考えてよい。したがって,ボートフィッシングは可能であるが,ヨットの所有者と個人的に交渉する必要がある(ポルトガル人などの外国人が多い)。釣り人口はきわめて多く,大人から子供まで,リール付の釣具をもっており,磯釣りが主体である。テグス,釣針の質は劣る。普通は,まながつお,ボラの類の小物であるが,沖釣りは別である。さらに,潜り漁では電気えいがとれるというが真疑のほどは不明である。それほど,天狗がいるということであろう。

教養,娯楽,趣味,スポーツ

10－9　娯楽,遊戯等

(1)　娯楽,遊戯,ゲーム

この項未調査

(2)　芸能興行

この項未調査

10－10 スポーツ

(1)　ゴルフ

この項未調査

(2)　テニス

この項未調査

(3)　スイミング

この項未調査

(4)　その他のスポーツ,用具,ウェア

この項未調査

(5)　スポーツクラブ等

この項未調査

(7)　一般事情

テニス,サッカーが盛んである。サッカーチームは各地区,各機関並びに有志のグループが多くあり,各チームの写真入りカレンダーがあるくらいである。テニスも盛んで,コートも多いが,いずれも日本人は教師級の腕前でないと参加できないほど,皆強く,上手である。

空手,柔道熱も盛り上りつつあり,ともに日本人が指導的立場にある。子供と一部の青年は,日本人は当然できるものと誤解し,披露するようせがまれることが度々ある。

10－11 風俗営業

外国人専用のクラブがアルジェ市内にはあるそうである。また公娼も存在するとのことであるが定かでない。営業といえるのかどうか分からないが,プロフェッショナルはフリーであり,遠国からの出稼ぎもいる。

10－12 子供の遊び

金持ちの子供は,高級自転車をもっている。一般には,街角でサッカーのまねや,海岸での磯釣りなどである。ローカルな遊びとしては,夜間に民家に集まり音楽を楽しむことくらいで,実態は不明である。学校帰りなどで,なぐり合いの喧嘩をみたことはない。公園などでは,いわゆる父親のサービスが多くみられる。日本の子供が,アルジェリア人と遊ぶことはほとんどない。

11. その他のサービス

11－1 美容院

この項未調査

11－2 理髪店

この項未調査

11－3 日本より持参したほうがよい美容,理髪用品

任国では,オーデコロンやクリームを髪と体に同時にぬる習慣がある。男性用の整髪はヘアークリーム(体にもぬる)とチックがあり,ポマードはない。女性用の香水,各種のクリームは多い。アルジェリア人は男女ともに美形であり,個性的である。しかし,日本女性の黒髪直毛は彼らにとって興味があり,反対にひとえまぶたには偏見をもっていることを付記しておく。

12. 観　光

この項未調査

13. 治安,緊急時の心得

13－1 暴動,クーデター等

この項未調査

(1) 緊急時の連絡

この項未調査

13－2 強盗,盗難

(1) 一般的治安状況

治安は良い。これは社会学の研究者による見方では,同国が秘密警察であるためらしい。このような国情により,一般人も警戒心が強く,特に外国人に対して警戒心を抱く一方,利用しようとする双方の気持ちがある。ピストル強盗などの狂悪犯がいない反面,知能的に人を利用して自己の利益を図ろうとする。特に外貨の取扱いには最大の注意を払うべきである。外国人に対する外貨管理の厳しいことは世界的に有名である。一方,庶民はあらゆる手段でヤミ交換をねらっている。

また,無実の罪を着せられることを極度に恐れるので,室内の物の紛失(こそ泥)には,彼ら自身のほうが気をつかう。反面,すきをみて,サッと持ち逃げする者もいる。車上ねらいの多いことはこの例である。

(2) 防犯対策

この項未調査

(3) 被災時の心得

この項未調査

13－3 火災,風災害,地震

(1) 一般的災害発生状況

この項未調査

(2) 防犯対策

この項未調査

(3) 被災時の心得

この項未調査

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14－1 入国時

(1) 空港施設概要

(2) 入国手続き書類

(3) 入国審査

(4) 税関検査

(5) 空港内での注意事項

(6) 空港からのトランスポーテーション

以上の項は未調査

(7) その他の留意点

外貨交換用紙は印刷されたものがあるが,時によってなくなることもある。最近は,航空機内で用紙を配布するまでに改善された。2通書きで,1通は税関に提出,もう1通は検印をもらって手持ちにする。銀行で現地通貨に交換する都度,交換証明印をもらい,出国時に提出する。出国時は,特に注意し,たとえば,提出するべき係官が判然としないので,確認してから堂々と提出すること。

14－2 出国時

この項未調査

14－3 帰国手続き

この項未調査

15. 私財の輸送, 引取り, 購入

この項未調査

16. 社　交

16－1 風俗習慣

個人的,秘密的,利己的である。したがって,社交の基本は自己の利益に関することに限られている。その点,金銭,特に外貨交換などの話が最後には持ち出される。彼ら自体の風俗習慣の実例はよく分らないが,家族ぐるみの交際の中に,個人的交際が強く浮彫りされるというタイプであろう。

16－2 パーティーでの留意点

プレゼントの交換の習慣があり,こちらからまずプレゼントしたほうがよい。よばれた時は,事前に当方の希望を述べて置くほうがよい。パーティーでは大抵は食事と会話が主体である。前もって,ローカル料理をご馳走して欲しいとか,写真を一緒に撮りたいとかいうのが無難であり,また先方も喜ぶ。

16－3 来客時の留意点

多人数を招いたときは,物を失敬する者がいる。その他は特にない。

16－4 訪問時の留意点

小さいプレゼントを用意したりすることは,対日本人との交際と全く同じである。

16－5 禁止されている言動

足を組む,指をさす,頭をなでるなどのタブーはない。軍隊,政治に関する発言,論議はきわめて危険である。

17. 任国公官庁

この項未調査

18. 在外日本関係機関等(含·日系銀行)

・ 在アルジェリア国日本大使館

1.Chemin Macklay, El－Biar, Alger, Algerie

郵便宛先 : B.P.80, El－Biar, Alger, Algerie

TEL : 78－63－41, 78－64－99, 78－67－79, 78－62－00

TELEX : 61389 TAISI DZ

Cable Address : TAISHI ALGER

執務時間については,イスラム教の断食月(ラマダン)の時期など,年によって変わるものもあるので,その都度,直接確認するほうがよい。

19. 地方都市(長期専門家10名前後滞在している都市)

該当なし

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は,国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家,JICA職員等の方々に,任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており,新しいデータが入手され次第,逐次更新できるシステムにしております。

現在までに,下記の国々について任国情報が整備されております。

なお,政府技術協力のために赴任するJICA役職員および専門家は,技術協力協定や要請文書等の外交関係により,任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され,一定の義務が免除される等の身分の保証がなされています。本書はこれらの条件を前提にして作成されているため,その記載内容は,必ずしも一般の入国,滞在にすべて当てはまるものではないことをあらかじめご理解願います。

— アジア地域 —

1. 中国
2. フィリピン
3. インドネシア
   (ジャカルタ,バンドン,ジョクジャカルタ,メダン)
4. シンガポール
5. マレイシア
6. タイ
   (バンコク,チェンマイ,コンケン)
7. ビルマ
8. バングラデシュ
9. スリ・ランカ
10. ネパール
11. パキスタン

— 中近東地域 —

1. サウディ・アラビア
2. シリア
3. ジョルダン
4. エジプト
5. アルジェリア
6. モロッコ

— 大洋州地域 —

1. フィジー

— アフリカ地域 —

1. エティオピア
2. ケニア
3. タンザニア
   (ダルエスサラーム,ザンジバル)
4. ブルンディ
5. ザンビア
6. ナイジェリア
7. ニジェール
8. トーゴー
9. ガーナ

— 中南米地域 —

1. ドミニカ共和国
2. メキシコ
3. グァテマラ
4. コスタ・リカ
5. パナマ
6. ヴェネズエラ
7. コロンビア
8. ペルー
9. ボリヴィア
   (ラ・パス,サンタクルス)
10. パラグァイ
    (アスンシオン,エンカルナシオン)
11. アルゼンティン
12. ブラジル
    (ブラジリア,サンパウロ,レシフェ,ポルトアレグレ,ベレーン)

本書記載事項の内容あるいは最新の情報についてご意見・ご希望がございましたら,巻末のコメント用紙を用いて下記までお知らせください。

〒162　新宿区市谷本村町10-5　国際協力センタービル
国際協力事業団　国際協力総合研修所　調査研究課
TEL 03-269-3201
FAX 03-269-2054

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見(説明不足、間違い、誤字、誤植、ご要望など)をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[返送先]　〒162　東京都新宿区市谷本村町10－5
国際協力センタービル
国際協力事業団 国際協力総合研修所
調査研究課 任国情報係

国　名		年　度	年版

氏　名		年　齢	歳	性　別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派　遣　期　間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住　所					
電話番号		日　付	年　月　日		

ページ	行	内　容

国総研記入欄					
記事		調査研究課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月　日	月　日	月　日	月　日

JICA

LIB